

高温による開花遅延の少ないコギク品種の選定			
[要約] コギクの8月盆出荷電照栽培において、「舞人」、「精ちぐさ」、「すばる」、「糸子」、「常陸サマールビー」、「精しまなみ」は消灯後の高温による採花日の遅延が少ない。			
農業総合センター園芸研究所	平成26年度	成果区分	技術情報

1. 背景・ねらい

近年の県内コギク生産では、物日出荷のための開花調節に電照技術が導入されているが、電照終了後の高温によって開花日が遅れる場合があり、高温遅延をさせずに安定開花させる技術が求められている。そこで、8月盆需要期作型に利用される品種の中から、高温による開花遅延の少ない品種を選定する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 高温処理において、採花遅延日数が長い品種である「釣船」と比較し、「舞人」、「精ちぐさ」、「すばる」、「糸子」、「常陸サマールビー」、「精しまなみ」は採花遅延日数が短い(図1)。これらの品種は複数年にわたり安定して採花遅延日数が短い。
- 2) 選定した6品種は、高温による切花長、調製重、節数、分枝数、花蕾数への影響が少ない(表1)。ただし、「舞人」ではフラワーフォーメーションが悪化する。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 平成22年から平成26年まで試験期間中に計53品種を供試した。平成22年から平成24年までは計41品種を供試し、無加温栽培で1次選抜した。平成25年は24品種を供試し加温栽培で2次選抜した。平成26年は2次選抜された15品種を供試し加温栽培で再現性を確認した調査結果である。
- 2) 本試験は、パイプハウスで人為的な高温処理(35℃換気25℃加温)を与えた結果である。採花遅延日数等は、圃場条件により異なる。
- 3) 試験期間中の日平均気温(6/15~7/31)は、平成25年が高温区29.4℃、対照区25.2℃、較差4.2℃、平成26年が高温区31.5℃、対照区25.7℃、較差5.8℃である。

4. 具体的データ

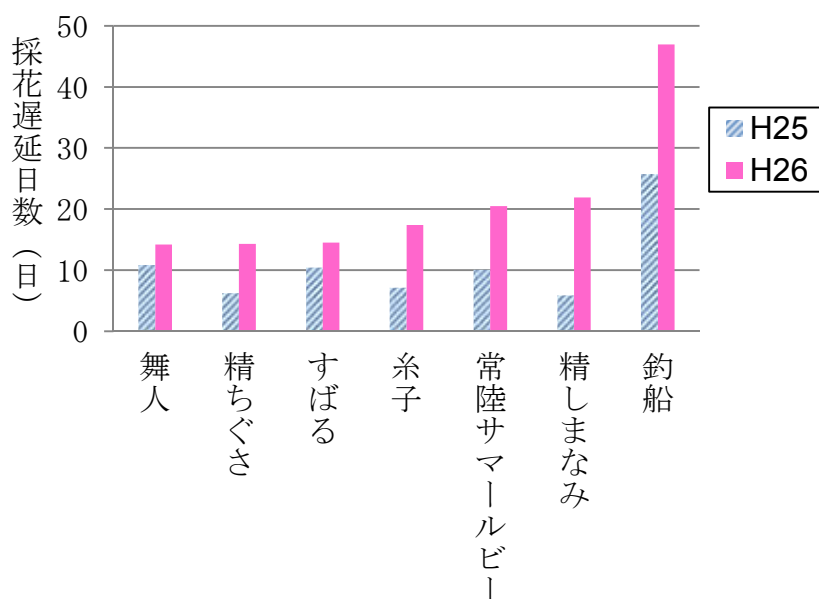


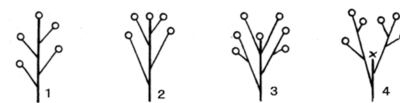
図1 採花遅延日数の品種間差

- 1) 高温区は 35℃換気、25℃加温のパイプハウス栽培とし、対照区は側窓と裾張りを開放したパイプハウス栽培とした。電照終了時から高温処理を開始した
- 2) 採花遅延日数=高温区の平均採花日-対照区の平均採花日
- 3) 栽培概要：H26年は4/25定植、H25年は4/24定植。白熱球による電照栽培（22時-2時までの4時間、暗期中断電照）
- 4) 試験規模：H25は1区12株・収穫枝36本1連制、H26は1区10株・収穫枝30本3連制

表1 収穫調査¹⁾ (H26年)

品種名	処理区	切花長 (cm)	調製重 ²⁾ (g)	節数 (節/枝)	分枝数 (本/枝)	花蕾数 (個/枝)	フラワーフォーメーション ³⁾	採花日 (月/日)
無人	高温	92	70	46	8	34	2	8/18
	対照	96	62	50	8	32	1	8/4
精ちぐさ	高温	91	52	48	18	37	1	8/15
	対照	91	47	47	22	32	1	8/1
すばる	高温	109	79	53	14	36	1	8/21
	対照	116	68	51	17	24	1	8/6
糸子	高温	111	62	41	6	21	3	8/18
	対照	118	57	39	7	24	3	7/31
常陸サマルビー	高温	74	71	22	7	24	3	8/10
	対照	73	51	25	8	21	3	7/20
精しまなみ	高温	98	79	47	13	56	1	8/18
	対照	98	65	48	14	44	1	7/28
釣船	高温	73	97	27	9	35	3	9/13
	対照	80	68	34	11	23	4	8/1

- 1) 栽培概要と試験規模、並びに処理区の高温と対照は図1と同じ
- 2) 茨城県切り花標準出荷規格に基づき、2L:80cm、L:70cm、M:60cm、S:50cmに調製した重量
- 3) フラワーフォーメーションは右図に基づく分類



5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

温暖化に対応した夏秋需要期キク開花調節技術の開発・平成22～26年度・花き研究室